

国産パプリカの生産拡大を目指して (株式会社 T e d y)

<法人の概要>

所在地：茨城県水戸市

設 立：平成12年4月

資本金：500万円 売上高：非公開

構成員（議決権）：農業従事者2名（40%）、個人2名（40%）

 J A全農いばらき（10%）、J A水戸（10%）

従業員数：常時雇用者2名、臨時雇用者13名

経営面積：4.3ha（すべて借入）

作付作物：パプリカ2.3ha、育苗ハウス(水耕レタス栽培兼用)0.2ha



ハウス内の様子



黄色のパプリカ

<営農を開始するまでの状況>

- ・ 元々J A茨城経済連に勤めていた林氏が、既存のM組合（農事組合法人）の事業（バラ栽培）を継承する形でスタートしたが、商品価値（カラフルな色や高い栄養価）や販路（当時のイタメシブーム）等から採算性十分ありとの判断から、国産では珍しいパプリカに生産品目を変更し、平成16年9月に(株)Tedyに名称変更した。
- ・ パプリカは、全国の消費量の約9割が輸入品であり、国産栽培を行うことにより、鮮度の高さや完熟出荷による食味の良さをアピールしている。
- ・ 販路についてはJ Aを通じた市場出荷が30%、業務加工用向けが30%、量販店への出荷が30%、近くの直売所への出荷が15%であり、幅広い販売先をもっている。
- ・ 当初事業継承したハウスに加えて、平成19年に国の補助事業を活用して約1.5haのハウスを整備したが、その際に借り受けた農地の4筆のうち3筆は遊休農地を有効活用した。

<特徴的な取組>

- ・ 周年栽培に伴う収穫量の増加により発生した規格外品（B級品、C級品）や一時的に需要を上回るパプリカの有効利用を図るため、同じ水戸市内にある野菜加工会社と連携し、ペースト加工したものを市内のホテルでアイスクリームやスープとして提供するなどして農商工連携の取組に結びついた。なお、今後も他産業と連携を図り、様々な商品原料としての販売を試みていきたいと考えている。
- ・ 国産パプリカの生産を考えている他県の生産者を研修生として受け入れ、独立後生産が軌道にのるまでコンサル業務に携わるなど、国産パプリカの生産拡大に一役買っている。
- ・ カットしたパプリカ（生鮮・冷凍）の地元学校給食センターへの供給、地元製パン業者と連携したパプリカを練り込んだパンの製造・販売、さらに地元の小学生の社会科見学や連携している企業の社員研修先として積極的な受け入れを行うなど地元根付いた取り組みを行っている。

<今後の農業経営の展開方向>

- ・ 近年の重油価格の高騰を受け、経営への打撃を緩和するためにさらなる効率的なエネルギー対策を行うとともに、パプリカよりも加温経費が低い葉物野菜の栽培への変更も視野に入れて考えている。
- ・ さらに若い社員に技術や経営ノウハウについて勉強させ、スムーズな経営継承を行いたい。

<今後法人化を進めようとしている方へのアドバイス>

- ・ 法人化がゴールではなく、栽培方法や販売方法等現状に満足せずに絶えず勉強し、絶えず変革していくことが重要であるとする。



源水タンク



B・C級品のパプリカ